

大甕小学校通信

令和元年度

9月号

文責：大甕小学校長 林 典行

「やればできる」

～ 様々な感動体験で自信をつける！！ ～

今年度より夏休みが3日短くなり、8月22日に2学期の始業式を迎えました。大きな事故等もなく、皆が元気に登校してきた様子を見て、ほっと胸をなでおろした次第です。

さて、いよいよ83日間(授業日数)の2学期がはじまりました。遠足をはじめ、原町区音楽祭、学習発表会、マラソン大会・・・と、子ども達が活躍する大きな行事が続きます。学校行事は、子ども達に豊かな人間性や社会性を培うための絶好の機会です。集団での活動を通じて、子ども達一人一人に役割意識を持たせ、充実感と満足感が味わえるようにしていきたいと考えます。

特に、子どもと関わる、子どものよさを見つける、子どもを認める、励ます、可能性を広げるなど、子ども一人一人の良さを生かし、子ども自身が自分を価値ある存在として自覚できるよう教職員一同努めてまいります。

ご家庭におかれましては、子ども達が何かに夢中になって取り組んでいる姿を温かく見守っていただくとともに、くじけそうなときは励ましていただきますようお願いいたします。



～ 新しい教育の時代 ～

時代はめまぐるしく変化しています。昔々は一家に1台「黒電話」、一昔前は「ポケベル」が一世を風靡し、ちょっと前なら「ガラケー」、今では家族全員「スマホ」を所有しているのが当たり前の中になりました。以前なら、書籍等で必死になって調べていたことも、SIRIに聞けばあっという間に答えが返ってきます。お掃除もルンバがしてくれます。大変便利なことです。

さて、子どもたちが大人になって活躍している20年後はいったいどのような世界になっているのでしょうか。予想もつきませんが、現在の知識や技能があまり役に立たなくなっていること、社会のグローバル化がますます進展しているであろうことは容易に推測できます。

これまでの学校教育では、知識の習得、すなわち暗記に重点が置かれていました。教師が大切なことを説明しながら黒板に書き、子どもたちが黙々とノートに写す、これがごく一般的な授業光景でした。高校・大学入試対策においても、知識をいかに頭に詰め込むかということに力点が置かれていました。

もちろん「読み・書き・そろばん」といった基礎・基本の習得はこれからも大切な学習の要素です。しかし、変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちに求められるものは、単に暗記することとどまらず、学習して得た知識を活用して自分なりに考え、発信する力だと言われていきます。

このような力を高めるため、学校では、自分の考えを持つ、友だちの意見を取り入れる、考えを積極的に書いたり話したりできるような授業づくりを進めているところです。また、高学年では、「自己マネジメント育成カード」をもとに、自ら計画的に家庭学習を進めています。受け身の学習姿勢から、子どもたちが主体的に学びに向かう力の育成を一層推進するため、ご家庭でもご理解とご協力の程よろしくをお願いいたします。

